

図 3-4 みどり・生きものの将来構造
【生きものと人がつながる生物多様性5大エリア】

表 3-3 新たに設定したみどり・生きもののエリアの概要

みどり・生きもののエリア (新設)	生きものの 主要な生息・生育地	設定の観点
横十間川親水公園/仙台堀川公園エリア	横十間川親水公園、仙台堀川公園、仙台堀川公園ポケットエコスペース、横十間川親水公園ポケットエコスペース、南砂緑道公園、江東区役所等	<ul style="list-style-type: none"> 区中央部に位置し、縦横に連続する親水公園がエコロジカルネットワークとして機能しています。 横十間川親水公園・仙台堀川公園ポケットエコスペースは一般立入が制限された保護区となっており、希少種保全の観点において重要です。 活動拠点となりえる江東区役所があります。
荒川・砂町水辺公園河口エリア	新砂干潟、新砂のぞみ公園ポケットエコスペース、荒川砂町水辺公園ポケットエコスペース(下流)、砂町水再生センター等	<ul style="list-style-type: none"> 区東側に位置し、深川・城東地区と湾岸地区をつなぐエコロジカルネットワークを形成している他、荒川上流域と海をつなぐ河口に面しています。 新砂干潟にはシギ・チドリ類やカニ類、ハゼ類等区の特徴的かつ保全すべき生態系があります。
富岡神社仏閣/企業緑地エリア	隅田川河口、越中島公園、再生の杜、木場千年の森、富岡八幡宮、東京海洋大学越中島キャンパス等	<ul style="list-style-type: none"> 区西側に位置し、深川地区と南部地区をつなぐエコロジカルネットワークを形成している他、隅田川上流と海をつなぐ河口に面しています。 企業緑地や隅田川沿いのビオトープの他、東京海洋大学越中島キャンパスや富岡八幡宮のまとまった緑地があります。
汐浜・汐見運河/企業緑地エリア	江東区役所、NOVARE、東陽町ぐりんたす、汐浜運河、汐見運河等	<ul style="list-style-type: none"> 区中央部に位置し、区東西にある富岡神社仏閣/企業緑地エリアと荒川・砂町水辺公園河口エリア、南部地区、湾岸地区をつなぐ拠点として機能しています。 駅前の商業地が集中している中で汐浜運河や汐見運河と企業緑地の連続性が形成されています。
大島緑道公園/集合住宅エリア	大島緑道公園、大島四丁目団地、大島六丁目団地、北砂五丁目団地広場等	<ul style="list-style-type: none"> 区北東側に位置し、北砂五丁目団地といったまとまった集合住宅緑地が城東北部・城東南部地区と都立猿江恩賜公園、荒川河川敷つなぐ拠点として機能しています。 周辺には小学校ポケットエコスペースが広く分布しており、ポケットエコスペースどうしのエコロジカルネットワークが密に形成されています。
亀戸神社仏閣エリア	亀戸天神社、龍眼寺、善應寺等	<ul style="list-style-type: none"> 区北部に位置し、南側にある都立猿江恩賜公園と北側の墨田区とのエコロジカルネットワーク拠点として機能しています。 亀戸天神社や龍眼寺等、歴史的な土壌が受け継がれており、花見等の文化活動の拠点にもなっています。
新木場緑道公園/砂町南運河エリア	新木場緑道公園、東京ヘリポート、砂町南運河等	<ul style="list-style-type: none"> 区南東部に位置し、湾岸地区の南北をつなぐエコロジカルネットワーク拠点として機能しています。 東京湾に面しており海岸沿いには磯環境もあることから、海の生きものの生息地としても重要です。
暁ふ頭公園エリア	暁ふ頭公園、青海北ふ頭公園、青海南ふ頭公園、青海中央ふ頭公園、青海緑道公園等	<ul style="list-style-type: none"> 区南西部に位置し、南部地区や都立海の森公園をつなぐエコロジカルネットワーク拠点として機能しています。 港湾からの外来種の侵入経路にもなっており、外来種対策拠点として重要です。

表 3-4 【生きものと人がつながる生物多様性5大エリア】の概要

みどり・生きもののエリア/ 生きものの主要な生息・生育地	選定根拠と将来展望
<p>①<u>横十間川親水公園/仙台堀川公園エリア</u> (新設)</p> <p>仙台堀川公園、横十間川親水公園、仙台堀川公園ポケットエコスペース、横十間川親水公園ポケットエコスペース、南砂緑道公園、江東区役所等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 区中央部に位置し、縦横に連続する親水公園がエコロジカルネットワークとして機能しています。 仙台堀川公園・横十間川親水公園ポケットエコスペースは一般立入が制限された保護区となっており、希少種保全の観点において重要です。 親水公園や緑道公園、江東区役所等、区民にとって身近な空間であり、普及啓発や区民参画の拠点とします。
<p>②<u>荒川・砂町水辺公園河口エリア</u> (新設)</p> <p>荒川河口・新砂干潟、新砂のぞみ公園ポケットエコスペース、荒川砂町水辺公園ポケットエコスペース(下流)、砂町水再生センター等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 区東側に位置し、城東地区と湾岸地区をつなぐエコロジカルネットワークを形成している他、荒川上流域と海をつなぐ河口に面しています。 新砂干潟にはシギ・チドリ類やカニ類、ハゼ類等区の特徴的かつ保全すべき生態系があります。 新砂干潟や各ポケットエコスペースにおいて民間団体の保全活動が積極的に行われている他、砂町水再生センターは都管理、荒川は国管理等、様々な主体との連携・協働の模範となる拠点とします。
<p>③<u>富岡神社仏閣/企業緑地エリア</u> (新設)</p> <p>隅田川河口、越中島公園、再生の杜、木場千年の森、富岡八幡宮、東京海洋大学越中島キャンパス等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 区西側に位置し、深川地区と南部地区をつなぐエコロジカルネットワークを形成している他、隅田川上流と海をつなぐ河口に面しています。 富岡八幡宮には歴史的な自然環境が残されている他、東京海洋大学越中島キャンパスにはまとまった緑地があり、歴史・文化や教育、産官学連携の観点でも重要です。 企業緑地や隅田川沿いのビオトープにおける保全活動が積極的に行われ、様々な主体との連携・協働や多角的な活動の拠点とします。
<p>④<u>猿江恩賜公園エリア</u> (既設)</p> <p>都立猿江恩賜公園、豎川第一公園ポケットエコスペース、釜屋堀公園ポケットエコスペース等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 区北側に位置し、墨田区との境界にあり、区内北側一帯や区外とのエコロジカルネットワークの拠点です。 都立猿江恩賜公園では都立科学技術高校との連携、周辺にある各ポケットエコスペースでは民間団体の保全活動が積極的に行われており、様々な主体として連携・協働、普及啓発の取組が期待できます。 同公園は、都の「多様な生物が生息する都立公園」に選定されており、生物多様性に配慮した工事やかいばりによる外来生物の駆除等先端的な取組が行われていることから、公園管理のモデル拠点とします。
<p>⑤<u>若洲海浜公園・若洲公園エリア</u> (既設)</p> <p>都立若洲海浜公園、若洲公園、若洲ゴルフリンクス等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 区南側に位置し、東京湾に面しており、海辺を利用する生きものや海から飛来した生きものが内陸を移動するためのエコロジカルネットワークの入り口として機能しています。 若洲公園は江東区版ゼロカーボンパークを目指しており、環境教育や普及啓発の取組が期待できます。 広大な草地環境がある他、人工磯のエコトーンがあり、陸と海の生きものの重要な生息・生育地の拠点とします。

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

資料編

(2) 地区別の現状・課題と 2050 年将来像

前述の重要拠点を踏まえた地区レベルの現状・課題・方針を次頁以降に示します。

地区区分は、「江東区都市計画マスタープラン 2022」(令和 4 (2022) 年 3 月) に従い、6 つの地区 (南部地区は西と東を 1 地区とします) に分けています。

地域区分	地区区分		対象区域
1. 深川地域	1. 深川北部地区		白河出張所管内 小松橋出張所管内
	2. 深川南部地区		旧東陽出張所管内 富岡出張所管内
2. 城東地域	3. 城東北部地区		亀戸出張所管内 大島出張所管内
	4. 城東南部地区		砂町出張所管内 南砂出張所管内のうち湾岸地区以外
3. 南部地域	南部地区	5. 南部地区西	豊洲特別出張所管内 (豊洲・有明・東雲・青海) (臨海副都心以外の首都高速道路湾岸線以南は除く)
		6. 南部地区東	豊洲特別出張所管内 (塩浜・潮見・枝川・辰巳) (臨海副都心以外の首都高速道路湾岸線以南は除く)
	7. 湾岸地区		首都高速道路湾岸線以南 (臨海副都心は除く) 南砂出張所管内のうち、新砂 (新砂地区地区計画区域は除く)、夢の島、新木場、若洲、中央防波堤埋立地

凡例

地区区分 (地域区分)	
深川地域	
	1. 深川北部地区
	2. 深川南部地区
城東地域	
	3. 城東北部地区
	4. 城東南部地区
南部地域	
	5. 南部地区西
	6. 南部地区東
	7. 湾岸地区



図 3-5 江東区都市計画マスタープラン 2022 における地域・地区区分

コラム CITY IN THE GREEN

江東区は水辺と緑に恵まれた街です。また、水辺を活かした親水公園や大きな樹木が育った大規模な公園等、特色ある公園にも恵まれています。こうしたみどりは将来に引き継いでいくべき貴重な資産です。

この特徴を活かしたみどりの街づくりの考え方をイメージしやすいように、江東区では「都市の中のみどり」ではなく、「みどりの中の都市」というキャッチフレーズを掲げています。これを英語で表現したものが「CITY IN THE GREEN (CIG)」です。

江東区では、「CIG」を合言葉に、みどりの資産を大切に守り、育てていくとともに、あらゆる場所での緑化を進めることで、街全体がみどりに囲まれた「水彩都市・江東」の実現を目指しています。



▲詳しくはこちら



【出典】江東区ウェブサイト「江東区は、「CITY IN THE GREEN」へ！」
(<https://www.city.koto.lg.jp/470132/machizukuri/midori/green/cig20.html>)

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

資料編

1) 深川北部地区

① 地区の概況

深川北部地区は、区の北西部に位置しており、地区内には、隅田川、小名木川、大横川、横十間川、仙台堀川といった河川が縦横に流れています。また、都立公園や集合住宅緑地等まとまった緑地や、湿地を有するポケットエコスペースが点在しており、仙台堀川や大横川沿いの緑地が縦横のエコロジカルネットワークを形成しています。

また、「多様な生物が生息する都立公園」である都立猿江恩賜公園や都指定名勝に指定されている都立清澄庭園には、大規模な池に水鳥や水生生物が生息しています。

表 3-5 地区の概況：深川北部地区

項目		地区概況	
		地区別	区全域
緑被率	R6 年度 時点	14.48% (6地区中6番目)	
公園 (児童遊園を含む)		箇所数	298 箇所
		面積	515.1ha
ポケット エコスペース		8 箇所 (15.4%) (区立公園 3 箇所 (仙台堀川公園、福富川公園、三島橋公園)、小学校 4 箇所、幼稚園 1 箇所)	52 箇所
みどり・生きもののエリア		4 箇所 (5大エリア番号) 横十間川親水公園/仙台堀川公園エリア (①)、猿江恩賜公園エリア (④)、木場公園エリア、清澄庭園エリア	22 箇所
生きものの主要な生息・生育環境	陸域環境 (樹林・草地)	都立木場公園、集合住宅緑地、社寺林 (巖寺)	 仙台堀川公園 ポケットエコスペース
	陸水域複合環境 (湿地・池・干潟・磯・緩傾斜護岸)	都立猿江恩賜公園 (池)、都立清澄庭園 (池)、ポケットエコスペース (湿地)、仙台堀川 (緩傾斜護岸)	
	水域環境 (河川・運河・海)	隅田川、小名木川、仙台堀川、大横川、横十間川	
エコロジカルネットワーク (第 2 章第 3 節における解析結果)	樹林地ネットワーク	横十間川親水公園/仙台堀川公園エリア～都立木場公園～都立清澄庭園間では、仙台堀川に沿って東西につながっています。また、都立猿江恩賜公園は城東北部地区とつながっています。	
	草地ネットワーク	都立猿江恩賜公園や都立木場公園、都立清澄庭園以外に草地が少なく、十分なネットワークが形成されていません。	
	河川ネットワーク	区北側を横断する小名木川が大河川の荒川と隅田川をつなげており、区中心部を縦横に流れる大横川及び仙台堀川がネットワークにおいて重要です。	
	淡水域ネットワーク	限られたポケットエコスペースと都立清澄庭園が網目状につながっているほか、特に元加賀小学校は都立猿江恩賜公園とのつながりに於いて重要です。	
生物多様性の保全や利用、普及啓発の取組		<ul style="list-style-type: none"> 都立猿江恩賜公園は、都の「多様な生物が生息する都立公園」に選定されており、生物多様性に配慮した工事や希少種の保全、かいぼりによる外来種駆除等の先端的な取組が行われています。 同公園では、都立科学技術高校と連携したいきもの展の開催、ヒキガエルの研究が行われています。 仙台堀川公園等、3つの区立公園ポケットエコスペースでは、民間団体による希少種の保全・維持管理活動が行われています。 	 都立猿江恩賜公園

② 地区の課題

深川北部地区の概況を踏まえた生物多様性の観点からの課題は以下のとおりです。

深川北部地区は、他地区と比較して緑被地が少なく、また草地や淡水湿地・池環境が限定的である他、南北方向における樹林地のエコロジカルネットワークや陸域と水域をつなぐエコトーンが十分に形成されていないことが課題と言えます。

表 3-6 地区の課題：深川北部地区

項目	地区の課題
生きものの主要な生息・生育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・緑被率が6地区中で最も低く、都立公園のようなまとまった緑地やポケットエコスペースのような自然度の高い緑地は、地区の南～東側に偏っています。 ・他地区と比較して草地環境が不足しています。 ・都立猿江恩賜公園やポケットエコスペースのような陸水域複合環境や生物多様性の保全・向上を目指した緑地が限定的です。 ・各河川の溶存酸素量は環境基準を下回っています。
エコロジカルネットワーク・エコトーン	<ul style="list-style-type: none"> ・城東北部地区との南北方向をつなぐ樹林地のエコロジカルネットワークが途切れており、十分につながっていません。 ・都立猿江恩賜公園や都立木場公園、都立清澄庭園以外に草地が少なく、十分に草地がつながっていません。 ・上流域と連続する地区西側の隅田川、地区内を縦横に流れる小名木川や大横川、仙台堀川は、規模が大きく水生生物の重要なネットワークであるものの、直立護岸で形成されており、緩傾斜護岸のようなエコトーンがあまり見られません。

③ 地区の将来像

深川北部地区の概況や課題を踏まえた2050年の将来像を以下に示します。

2050年将来像

猿江恩賜公園等に昔から江東区にいる生きものが保護され、**みどり・生きもの**のエリアを中心に自然と触れ合える水と緑の空間が広がっています。

- ・**横十間川親水公園/仙台堀川公園エリア**や都立猿江恩賜公園等の**都立公園エリア**を中心に、区立公園や小学校、集合住宅緑地等の民間緑地も含め既存の緑地が維持、多自然化し、**区域内外をつなぐ**エコロジカルネットワークを形成しています。
- ・隅田川や小名木川、大横川、仙台堀川、横十間川は良好な水質が保たれています。
- ・都立公園では、都立猿江恩賜公園を中心に生物多様性に配慮した維持管理や生物調査、多様な主体が連携した環境教育や普及啓発の取組が行われています。また、都立清澄庭園の歴史的な景観や文化が受け継がれています。
- ・ポケットエコスペースでは、持続的かつ適切な維持管理が行われており、希少種や湿地性の動植物の生息・生育環境が維持・向上しています。また、区立公園や小学校等で新たなポケットエコスペースが創出されており、生きものの生息・生育地が拡大し、多様化しています。さらに、定期的な調査が行われ、学校教育や身近な普及啓発の場として活用されています。



猿江恩賜公園のいきもの展

【出典】東京都立科学技術高等学校ウェブサイト「科学技術高校と猿江恩賜公園のコラボ企画！」

④ みどり・生きものエリア等の目指すべき方向性

深川北部地区にある各エリア等の目指すべき方向性を以下に示します。

表 3-7 深川北部地区：みどり・生きものエリア等の目指すべき方向性

区分	場所・施設	目指すべき方向性	目標※	
みどり・ 生きもの のエリア	【5大 エリア①】 横十間川親 水公園/仙台 堀川公園エ リア(仙台堀 川公園・横十 間川親水公 園、各ポケッ トエコス ペース等)	・各ポケットエコスペースは湿地性植物の主要な生息・生育地として機能しており、適切な維持管理が行われています。	I	
		・縦横に連続する公園の緑地・水辺が保たれ、多様化しており、区中心部のエコロジカルネットワークの拠点として機能しています。		
		・住環境の中に生きものと人が適切な距離感で共存しています。		
	【5大 エリア④】 猿江恩賜公園 エリア	・日常の自然観察や憩いの場となっています。	II	
		・身近な自然を題材とした普及啓発や環境教育が定期的に行われており、保全活動や調査への区民参加が進んでいます。	III	
		都立公園エ リア (木場公園・ 清澄庭園)	・生物多様性保全事業の整備が進められ、多様な主体との連携により、多様な樹林や池が保たれエコトーンを形成しています。	I
			・生態系に影響を及ぼす外来種の防除を実施しています。	II
			・サクラやチューリップ、池に集まる水鳥の名所として自然観察の場であり、様々な自然体験イベントが開催されています。	III
		みどり・ 生きもの の動脈・ みち	河川・運河 (小名木川・ 隅田川・大横 川・仙台堀 川・横十間 川)	・生物多様性に配慮した公園管理手法を普及啓発しています。
・都立科学技術高校との連携が継続して行われています。				
都立清澄庭 園～小名木 川	・大横川や仙台堀川とつながる緑地や水辺が保たれ、生物多様性に配慮した維持管理が行われています。		II	
	・アジサイ等の花や紅葉、水鳥と名石の名勝として自然観察の場であり、昔から受け継がれてきた歴史的景観や文化、そこに生息・生育する動植物を題材とした自然体験が行われています。	III		
みどり・ 生きもの のスポッ ト	ポケットエ コスペース (三島橋公 園、福富川公 園、仙台堀川 公園、各小学 校・幼稚園)	・荒川と隅田川、区内部の河川が縦横につながり、水生生物や水鳥の重要なエコロジカルネットワークとして機能し、良好な水質が保たれています。	I	
		・生きもの新たな生息・生育環境が形成されています。		
		・豊かな水辺で釣りや水鳥観察のイベントが開かれ、川沿いの桜並木では花見を楽しみ、水辺に親しめる場となっています。		
	コミュニテイ ガーデン	・区立公園や集合住宅(マンション)、神社仏閣といった緑地では生物多様性に配慮した維持管理が行われています。	I	
		・新たな水辺や自然度の高い空間等が新たに創出され、地区内外のエコロジカルネットワーク形成に貢献しています。		
		・日常の自然観察や憩いの場となっています。		
みどり・ 生きもの のスポッ ト	ポケットエ コスペース (三島橋公 園、福富川公 園、仙台堀川 公園、各小学 校・幼稚園)	・区と民間団体、小学校・幼稚園が連携・協働し、持続的な体制のもと適切な維持管理、定期調査が行われており、希少種や湿地性の動植物の生息・生育環境が維持・向上しています。	I	
		・多様な生きものが見られ自然度の高い身近な空間として、こどもから大人まで楽しめる自然観察の場となっています。		
		・学校教育や身近な普及啓発の場として活用されており、ポケットエコスペースの重要性に対する認知度が高まっています。		
みどり・ 生きもの のスポッ ト	コミュニテイ ガーデン	・在来種使用等の生物多様性に配慮したガーデン活動が広がり、区民だけでなく来訪者も楽しめる空間が街を彩っています。	II	
		・ガーデンを活用した環境教育や普及啓発が行われています。		

※各場所・施設の将来像につながる3つの2030年目標を示します。



図 3-6 深川北部地区：みどり・生きもののエリア等と今いる生きもの

2) 深川南部地区

① 地区の概況

深川南部地区は、区の中央西に位置しており、地区内には、隅田川、大横川、横十間川、仙台堀川といった河川が縦横に流れています。また、都立公園や富岡八幡宮、東京海洋大学越中島キャンパス等まとまった緑地や、湿地・池があるポケットエコスペースや企業緑地が点在しており、エコロジカルネットワークを形成しています。

企業緑地「再生の杜」、「木場千年の森」や、隅田川沿いの「越中島公園ビオトープ」では多様な主体が地域と連携し、対外的な取組が積極的に行われています。

表 3-8 地区の概況：深川南部地区

項目	地区概況		
	地区別		区全域
緑被率	R6	17.64% (6地区中3番目)	21.01%
公園(児童遊園を含む)	箇所数	49か所 (16.4%)	298か所
	面積	30.8ha (7.0%)	515.1ha
ポケットエコスペース	時点	7か所 (13.5%) (区立公園2か所(横十間川親水公園、東陽一丁目第一公園)、 小学校4か所、幼稚園1か所)	52か所
みどり・生きもののエリア	4か所(5大エリア番号) 横十間川親水公園/仙台堀川公園エリア(①)、富岡神社仏閣/企業緑地エリア(③)、木場公園エリア、汐浜・汐見運河/企業緑地エリア		22か所
生きものの主要な生息・生育環境	陸域環境(樹林・草地)	都立木場公園、東京海洋大学越中島キャンパス、社寺林(富岡八幡宮等)、江東区役所	 再生の杜 【出典】環境省ウェブサイト「自然共生サイト」
	陸水域複合環境(湿地・池・干潟・磯・緩傾斜護岸)	ポケットエコスペース(湿地)、再生の杜(湿地)、木場千年の森(湿地)、越中島公園ビオトープ(浅瀬)	
	水域環境(河川・運河・海)	隅田川、大横川、横十間川、仙台堀川、平久川、大島川西支川等	
エコロジカルネットワーク (第2章第3節における解析結果)	樹林地ネットワーク	都立木場公園を中心に、南西の 富岡神社仏閣/企業緑地エリア 、南東の 汐浜・汐見運河/企業緑地エリア とつながっています。	
	草地ネットワーク	都立木場公園や富岡神社仏閣/企業緑地エリアでつながりがありますが、 他地区と十分につながっていません。	
	河川ネットワーク	地区内の河川が網目状につながっています。また、地区西側を流下する隅田川と晴海運河、豊洲運河が河口付近でつながっており、河川域と海域つながりとして重要です。	
	淡水域ネットワーク	再生の杜や、東陽一丁目第一公園・南陽幼稚園のポケットエコスペースが南部地区とのつながりにおいて重要です。	
生物多様性の保全や利用、普及啓発の取組	<ul style="list-style-type: none"> 横十間川親水公園(江東植物保存区：K0FL0S)等2つの区立公園ポケットエコスペースでは、民間団体による希少種の保全・維持管理が行われています。 横十間川親水公園にある区が整備した田んぼでは農薬を使わず、無化学肥料、無動力の稲作体験が行われています。 隅田川沿いでは、複数の団体による越中島公園ビオトープ(本川から柵で囲われた浅瀬・ワンド)の造成や調査が行われています。 再生の杜や木場千年の森は、自然共生サイトに認定されており、民間企業によるビオトープの造成や調査、緑地を活用した環境教育等、様々な活動やイベントの場となっています。 		

② 地区の課題

深川南部地区の概況を踏まえた生物多様性の観点からの課題は以下のとおりです。

深川南部地区は、都立公園や企業緑地、ポケットエコスペース、社寺林など多種多様な水辺・緑地がありますが、まとまった緑地は限定的であり、網目状の河川を活かした樹林地のつながりや草地のつながりがあまり見られないこと、直立護岸が多く陸域と水域をつなぐエコトーンが十分に形成されていないことが課題と言えます。

表 3-9 地区の課題：深川南部地区

項目	地区の課題
主要な生きものの生息・生育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・都立公園や東京海洋大学越中島キャンパス、富岡八幡宮等のまとまった緑地は限定的であり、地区北西の永代や地区東の東陽等は緑被地が少ないです。 ・再生の杜や木場千年の森、ポケットエコスペースのような陸水複合環境や生物多様性の保全・向上を目指した空間が限定的です。 ・各河川の溶存酸素量は環境基準を下回っています。
エコロジカルネットワーク・エコトーン	<ul style="list-style-type: none"> ・上流域からの連続性を有する隅田川や網目状の区内部の河川を活かした樹林地のつながりが見られません。 ・都立都立木場公園や富岡神社仏閣/企業緑地エリア以外に草地が少なく、十分に草地がつながっていません。 ・越中島公園ビオトープといった浅場・ワンドが一部あるものの、河川の大部分は直立護岸で形成されておりエコトーンがあまり見られません。

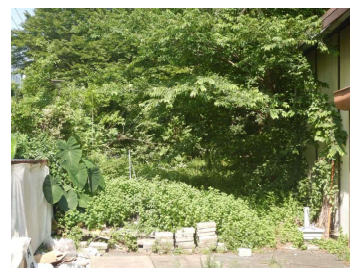
③ 地区の将来像

深川南部地区の概況や課題を踏まえた 2050 年の将来像を以下に示します。

2050 年将来像

区役所や企業緑地、越中島公園ビオトープ、大学キャンパスの緑地等を活かした産官学連携による生物多様性保全が進んでいます。

- ・横十間川親水公園/仙台堀川公園エリアや富岡神社仏閣/企業緑地エリア、まとまった緑地を有する都立木場公園を中心に、区役所や区立公園、小学校、商業施設緑地等の民間緑地も含め既存の緑地が維持、多自然化しており、隅田川と網目状の河川、その護岸沿いの緑地が水と緑のエコロジカルネットワークを形成しています。
- ・隅田川や大横川、仙台堀川、横十間川、平久川等は良好な水質が保たれています。
- ・富岡神社仏閣/企業緑地エリアでは、大学緑地や社寺林と企業緑地、隅田川・東京湾を活用した、産官学連携や先端技術に基づく生物多様性の保全・研究・環境教育、歴史・文化と生物多様性の関連性を題材とした普及啓発といった多角的・対外的な取組が行われています。
- ・KOFLOS を代表とするポケットエコスペースでは、持続的な体制のもと適切な維持管理や定期調査が行われており、希少種や湿地性の動植物の生息・生育環境が維持・向上しています。
- ・多様な主体が連携した生物多様性フェアが開かれ、多くの人が訪れています。



横十間川親水公園ポケットエコスペース
(江東植物保存区：KOFLOS)

④ みどり・生きものエリア等の目指すべき方向性

深川南部地区にある各エリア等の目指すべき方向性を以下に示します。

表 3-10 深川南部地区：みどり・生きものエリア等の目指すべき方向性

区分	場所・施設	目指すべき方向性	目標※
みどり・ 生きもの のエリア	【5大エリア ①】 横十間川親水 公園/仙台堀 川公園エリア	(深川北部地区に詳述)	
	【5大エリア ③】 富岡神社仏閣 /企業緑地エ リア(越中島 公園、東京海 洋大学越中島 キャンパス、 越中島小学 校、富岡八幡 宮、再生の杜、 木場千年の森 等)	・東京海洋大学越中島キャンパスや富岡八幡宮のまとまった緑地は、エコロジカルネットワークの要として、生物多様性に配慮した維持管理や調査、希少種の保全活動が行われています。 ・自然共生サイトの企業緑地(再生の杜・木場千年の森)や越中島公園ビオトープでは、良好なエコトーンが形成されており、水鳥や希少な水生生物が保全されています。	I
		・区民だけでなく、キャンパスは学生、富岡八幡宮は参拝者等の区内外の方々の自然観察や憩いの場となっています。 ・歴史的な土壌に生育するクゲヌマラン等、歴史と文化に根づく生物多様性を感じることができる空間となっています。	II
		・大学緑地や社寺林、企業緑地、隅田川・東京湾を活用した産官学連携や先端技術に基づく生物多様性の保全・研究・環境教育活動、歴史・文化と生物多様性の関連性を題材とした普及啓発等、各主体の多角的な取組が行われています。	III
	汐浜・汐見運 河/企業緑地 エリア	(南部地区に詳述)	
木場公園エリ ア	(深川北部地区に詳述)		
みどり・ 生きもの のみち	河川・運河 (隅田川、大 横川、横十間 川、仙台堀川、 平久川 等)	・地区内を網目状につなぐ水生生物や水鳥の水域のエコロジカルネットワーク、河川沿いの樹林地のエコロジカルネットワークが地区内外の緑地をつなげるように機能し、生きもの移動や交流を容易にしています。 ・生きもの新たな生息・生育環境が広く形成されています。	I
		・豊かな水辺で釣りや水鳥観察のイベントが開かれ、川沿いの桜並木では花見を楽しみ、水辺に親しめる場となっています。	II
みどり・ 生きもの のスポッ ト	ポケットエコ スペース (横十間川親 水公園 (KOFLOS)、東 陽一丁目第一 公園、各小学 校・幼稚園)	・区と民間団体、小学校・幼稚園が連携・協働し、持続的な体制のもと適切な維持管理、定期調査が行われており、希少種や湿地性の動植物の生息・生育環境が維持・向上しています。 ・KOFLOSは植物保存区として保全の研究が行われています。	I
		・多様な生きものが見られ自然度の高い身近な空間として、子どもから大人まで楽しめる自然観察の場となっています。	II
		・学校教育や身近な普及啓発の場として活用されており、ポケットエコスペースの重要性の認知度が高まっています。	III
	コミュニテイ ガーデン	・在来種使用等の生物多様性に配慮したガーデン活動が広がり区民だけでなく来訪者も楽しめる空間が街を彩っています	II
		・ガーデンを活用した環境教育や普及啓発が行われています。	III
田んぼ(横十 間川親水公 園)	・田んぼの学校に多くの子どもが参加し、昔ながらの農体験や水田にいる生きもの観察を通して自然に親しんでいます。	II	
	・田植え体験を通して江戸期にあった水田・湿地環境と土地利用の変遷、生物多様性の恵みの大切さを学ぶ機会があります。	III	

※各場所・施設の将来像につながる3つの2030年目標を示します。



図 3-7 深川南部地区：みどり・生きもののエリア等と今いる生きもの

3) 城東北部地区

① 地区の概況

城東北部地区は、区の北東部に位置しており、小名木川、旧中川、横十間川、豎川、北十間川といった河川が地区を囲んでいます。また、旧中川の河川敷には水際植生が発達しており、まとまった緑地を持つ都立公園があります。また、全地区で最も多くのポケットエコスペースがあり、地区内の淡水域ネットワークが発達しています。

本地区には、香取小学校における亀戸ダイコンの栽培、亀戸天神社におけるフジの花等、生物多様性に基づく江東区を代表する歴史・文化が受け継がれています。

表 3-11 地区の概況：城東北部地区

項目	地区概況		
	地区別		区全域
緑被率	R6	15.60% (6地区中5番目)	21.01%
公園(児童遊園を含む)	箇所数 面積	年	63か所 (21.1%)
		度	40.5ha (7.9%)
ポケットエコスペース	時点	14か所 (26.9%) (区立公園3か所(釜屋堀公園、豎川第一公園、亀戸九丁目緑道公園)、小学校10か所、幼稚園1か所)	52か所
みどり・生きもののエリア	4か所(5大エリア番号) 大島緑道公園/集合住宅エリア、亀戸神社仏閣エリア、亀戸中央公園エリア、大島小松川公園エリア		22か所
生きものの主要な生息・生育環境	陸域環境(樹林・草地)	都立亀戸中央公園、都立大島小松川公園、社寺林(普門院)、大島・亀戸緑道公園、集合住宅緑地(大島六丁目団地等)	 旧中川水辺公園 水際植生
	陸水域複合環境(湿地・池・干潟・磯・緩傾斜護岸)	ポケットエコスペース(湿地)、旧中川水辺公園(旧中川河川敷の緩傾斜護岸・水際植生)、亀戸天神社(池)	
	水域環境(河川・運河・海)	小名木川、旧中川、北十間川、横十間川、豎川等	
エコロジカルネットワーク (第2章第3節における解析結果)	樹林地ネットワーク	都立猿江恩賜公園～大島緑道公園/集合住宅エリア～荒川方面の地区南部における東西方向につながっています。	
	草地ネットワーク	都立亀戸中央公園～亀戸緑道公園～大島緑道公園の軸、旧中川河川敷の南東方向の軸でつながりがあるほか、 地区内にある集合住宅緑地や公園が網目状につながっています。	
	河川ネットワーク	河川が地区を外周し、旧中川と荒川がつながっています。旧中川右岸の河川敷は捨石による緩傾斜護岸と水際植生が都立亀戸中央公園から都立大島小松川公園まで連続しています。	
	淡水域ネットワーク	地区内に数多くポケットエコスペースが点在しており、これらが 地区内だけでなく隣接地区とも網目状につながっています。	
生物多様性の保全や利用、普及啓発の取組	<ul style="list-style-type: none"> 区立公園ポケットエコスペースでは、民間団体による希少種の保全・維持管理活動が行われています。 香取小学校には亀戸ダイコンの栽培、亀戸天神社にはフジの花等、生物多様性に基づく江東区を代表する歴史・文化が受け継がれています。 都立亀戸中央公園では、公園の樹木に親しんでもらうためデジタルガイド「はなもく散歩」を導入しクイズ形式で木の生態を知れる取組があります。 東大島文化センターでは、「川と緑の生きもの展～江東区の魚と昆虫大集合～」が毎年開催され、江東区の水辺に生息する生きものを展示しています。 		 都立亀戸中央公園

② 地区の課題

城東北部地区の概況を踏まえた生物多様性の観点からの課題は以下のとおりです。

城東北部地区は、他地区と比較して**樹林地等の**緑被地が少なく、また生物多様性の保全に特化した場所や空間が限定的である他、旧中川沿いと地区内部をつなぐ樹林地エコロジカルネットワークや区内部の河川において陸域と水域をつなぐエコトーンが十分に形成されていないことが課題と言えます。

表 3-12 地区の課題：城東北部地区

項目	地区の課題
主要な生きものの生息・生育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・緑被率が6地区中で二番目に低く、生きものの生息・生育地が都立公園や集合住宅団地、旧中川河川敷と限定的です。 ・生物多様性の保全に特化した空間はポケットエコスペース等に限られています。 ・各河川の溶存酸素量は環境基準を下回っています。
エコロジカルネットワーク・エコトーン	<ul style="list-style-type: none"> ・都立亀戸中央公園等旧中川沿いと地区中央部をつなぐ樹林地エコロジカルネットワークが十分に形成されていません。 ・地区を外周する旧中川や各河川は魚類や水鳥のネットワークを形成していますが、旧中川以外の区内部の河川は直立護岸で形成されておりエコトーンがほとんど見られません。

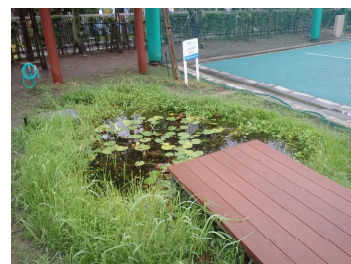
③ 地区の将来像

城東北部地区の概況や課題を踏まえた 2050 年の将来像を以下に示します。

2050 年将来像

亀戸天神社などの歴史的な花文化や江戸野菜を楽しむことができ、**大島緑道公園/集合住宅エリア**を中心に新たな水辺や緑地が創出されています。

- ・まとまった緑地を有する都立亀戸中央公園や都立大島小松川公園と自然度の高い旧中川の河川敷から地区中央部～南部にかけて、区立公園、小学校、集合住宅団地等の民間緑地も含めた既存の緑地が維持、多自然化しています。
- ・緑道公園や街路樹等の樹林地が旧中川と地区中央部をつないでいます。
- ・小名木川、横十間川、旧中川等は良好な水質が保たれ、地区を囲んでいます。
- ・**大島緑道公園/集合住宅エリア**では、集合住宅団地の建て替えにより生物多様性に配慮した緑地が創出されています。また持続的な維持管理が管理者や住民、行政、民間団体等の連携・協働により進められており、景観や住環境の高質化、団地の価値の向上に寄与する等、生きものと人が共存する空間が成り立っています。
- ・**亀戸神社仏閣エリア**では、亀戸天神社のフジや龍眼寺のハギ、香取小学校で栽培されている亀戸ダイコン等の江東区を代表する歴史・文化が受け継がれ、江戸期から続く生物多様性の恵みとして学校教育や区外から訪れる来訪者への普及啓発に広く活用されています。
- ・ポケットエコスペースでは、持続的な体制のもと適切な維持管理や定期調査が行われており、希少種や湿地性の動植物の生息・生育環境が維持・向上しています。また、小学校では、地域部活動の一環で小学生による維持管理や観察記録の発信が行われています。



香取小学校ポケットエコスペース

④ みどり・生きものエリア等の目指すべき方向性

城東北部地区にある各エリア等の目指すべき方向性を以下に示します。

表 3-13 城東北部地区：みどり・生きものエリア等の目指すべき方向性

区分	場所・施設	目指すべき方向性	目標※
みどり・ 生きもの のエリア	都立公園エ リア (亀戸中央 公園・大島 小松川公 園)・旧中川 水辺公園	・旧中川沿いにある都立公園では、河川敷の緩傾斜護岸・水際植生から草地、樹林地までのエコトーンが充実しており、生物多様性に配慮した維持管理が行われています。	I
		・花、紅葉の名所や水辺の釣り場等の自然観察や体験の場、健康増進・スポーツの場として広く認知されています。 ・避難場所や雨庭等防災拠点として機能しています。	II
		・多様な主体と連携した水辺を活用した釣りイベントや水辺の生きもの展示会等で、生物多様性だけでなく、旧中川の歴史や防災・親水に関する環境教育が行われています。	III
	大島緑道公 園/集合住 宅エリア (大島四丁 目団地、大 島六丁目団 地、北砂五 丁目団地 等)	・集合住宅団地の建て替えにより、生物多様性に配慮した緑地が創出され、持続的な維持管理が管理者や住民、行政、民間団体等の連携・協働により進められており、生きもの人と人が共存する空間があります。	I
		・日常の自然観察や憩いの場となっています。また、「カフェ 06」等のコミュニティサロンでは、団地で見られる生きものの観察記録や写真が住民から投稿され集まっています。	II
	亀戸神社仏 閣エリア (亀戸天神 社、龍眼 寺、香取小 学校等)	・民間団体や造園会社と連携し、生物多様性に配慮した維持管理が行われて、昔から受け継がれてきた土壌や緑地に生育する希少植物が計画的に保全されています。	I
		・亀戸天神社のフジや龍眼寺のハギ、香取小学校で栽培されている亀戸ダイコン等の江東区を代表する歴史・文化が受け継がれ、体験の場となっています。	II
		・花文化や江戸東京野菜等、江戸期から続く江東区独自の生物多様性の恵みとして、学校教育や来訪者への体験型の普及啓発に広く活用されています。	III
	みどり・ 生きもの の動脈・ みち	河川・運河 (小名木 川・旧中 川・北十間 川・竪川・ 横十間川)	・地区を囲むように水生生物や水鳥の重要なエコロジカルネットワークとして機能し、良好な水質が保たれています。 ・生きもの新たな生息・生育環境が形成されています。
・豊かな水辺で釣りや水鳥観察のイベントが開かれ、川沿いの植栽を楽しみ、水辺に親しめる場となっています。			II
大島緑道公 園・亀戸緑 道公園		・街中を通る身近な自然が保たれ、みどりの拠点や点在する緑地をつなぐエコロジカルネットワークとして機能しています。	I
		・日常の自然観察や憩いの場となっています。	II
みどり・ 生きもの のスポッ ト	ポケットエ コスペース (釜屋堀公 園、竪川第 一公園、亀 戸九丁目緑 道公園、各 小学校・幼 稚園)	・区と民間団体、小学校・幼稚園が連携・協働し、持続的な体制のもと適切な維持管理、定期調査が行われており、希少種や湿地性の動植物の生息・生育環境が維持・向上しています。	I
		・多様な生きものが見られ自然度の高い身近な空間として、こどもから大人まで楽しめる自然観察の場となっています。	II
	・小学校では地域部活動の一環で小学生による維持管理や観察記録の発信が行われており、学校間で連携しています。	III	
	コミュニ ティガーデ ン	・在来種使用等の生物多様性に配慮したガーデン活動が広がり、区民だけでなく来訪者も楽しめる空間が広がっています	II
		・ガーデンを活用した環境教育や普及啓発が行われています。	III

※各場所・施設の将来像につながる3つの2030年目標を示します。

